

あなたの会社は「技術を未来の資産」にできていますか？

～ 4 つの視点で点検する『技術の棚卸しチェックリスト』～

「うちにも強みはある。でもうまく伝えられていない」

「技術の整理をしたいが、どこから始めればいいのか分からない」

そんなときに役立つのが、『技術を未来の資産に変える 4 つの視点』です。
次の項目で、自社の技術がどこまで整理できているか確認してみましょう。

1. 技術の独自性を「外から見える形」にできているか

- ☐ 「当社に依頼するべき」と主張にたる技術がある
- ☐ 他社が真似しにくい技術の工夫やこだわりを言語化している
- ☐ 不良を抑える検査や工程改善などのノウハウが整理している

2. 技術を「顧客の未来価値」に翻訳できているか

- ☐ 技術の説明を「お客さんにとって何が良くなるか」に変換できている
- ☐ 納期短縮・コスト削減・歩留まり改善など、具体的な変化として語れる
- ☐ Web・営業資料で価値として伝えている

3. 暗黙知を「会社の資産」に変える仕組みがあるか

- ☐ 判断基準・コツ・典型トラブルなどを形式知として残している
- ☐ 写真・動画・チェックリストなどで再現性を高めている
- ☐ 属人化を放置せず、新人育成に活かす仕組みがある

4. 「未来に伸ばす技術」を選べているか

- ☐ 3～5年後に必要となる技術を検討している
- ☐ 市場・競合・顧客ニーズを踏まえて開発の方向性を描けている
- ☐ 自社で持つべき技術／外部と組むべき技術を整理できている

自己診断の方法

- 各項目で「はい」と思えばチェックを入れてください
- 合計チェック数で、今の状態を確認できます



判定と改善アドバイス

10～12 個：技術が『未来の資産』として整理できている状態

⇒ 技術が事業の軸として言語化できています。

今後は、これらを 知財台帳・ブランド資料・営業資料 に展開し、対外的な発信力を高めましょう。

6～9 個：強みはあるが「整理が不十分」な状態

⇒ 技術を持っているのに「伝わる形」にできていない部分があります。

まずは、今回の 4 つの視点のうち 最も弱い領域を 1 つ選んで強化するところから始めましょう。

0～5 個：技術が「埋もれたまま」の状態

⇒ 強みはあるのに見える化できていない可能性が高いです

最初の一步は、自社技術の工夫・こだわりを 3 つ書き出すことです。



活用のポイント

このチェックリストは、技術の良し悪しを評価するものではありません。

経営者が「自社の技術をどう整理し、どう未来につなげていくか」を確認するための第一歩としてご活用いただくものです。

技術は持っているだけでは価値になりません。

「言葉にし、構造として整理し、未来の方向性に結びつける」ことで、初めて経営の資産になります。

そのための「最初の気づき」を得るツールとして、チェックリストをご活用ください。